

# あなたはそれを知っていた

結城 洋一郎

一九四五年四月一日、アメリカ軍は、ドイツ国内にある「ブーヘンヴァルト強制収容所」を解放した。その余りの惨状を見せつけられたドイツ市民の中には、「私は知らなかった」と叫ぶ者もいた。しかしその時、生き延びた囚人たちからは、「いや、あなた方は知っていた」との声が上がったのだった。

このことが示すように、私たちは、実はずでに多くの事実を知っていながら、あるいはそれを知る数々の手がかりを与えられているにもかかわらず、それが自分に不都合なものである場合には、知らぬふりをし、それを確かめようとはしないのである。

私は今、これまでウクライナで起きてきた数々の残虐行為に目を覆い、現在のネオナチ政府を支持しようとしている人々、あなた方のことを話しているのだ。

二〇一四年、ウクライナのネオナチ勢力は、何十人も自分の仲間の仲間を撃ち殺して、その責任を政府に被せて政権を転覆し、反対派の市民を焼き殺し、ドンバス（東ウクライナ）を砲撃して一万数千人とも言われる住民を殺害し続けた。その間、あなた方はそれに対して一言でも抗議の声を上げただろうか。今、

彼らは市民を盾に病院や学校に陣を構え、捕虜や市民を殴打し、辱め、拷問して殺害するなどの犯罪行為を繰り返している。少しでも調べようとしたならば、その証拠を示す無数の記事や動画を見ることが出来たはずである。

しかし、あなた方はこの残虐な勢力を支持し、彼らのための募金活動を行い、ロシア政府やドンバスの人々を非難しているが、つまりはそれが、あなた方が言う「民主主義」「人権」「平和」の内実なのである。

そこであなた方は言うかもしれない。「そんな残虐行為は知らなかった」、「それはロシア側のプロパガンダだろう」と。しかしあなた方は、多くの人たちが指摘し続けてきた事実を八年間（それは「ブーヘンヴァルト強制収容所」が存続した年月にほぼ等しい）にわたって無視し続け、それを確かめようとはしなかつたのだ。

あるいは、あなた方は言うかもしれない。「私は戦争に反対しただけだ。そのどこが悪いのか」と。なるほど、戦争には誰しもが反対である。だが、その判断の基礎には、先ずもって公平さがなければなるまい。だから「罪なき者が石を持って」という言葉が語り継がれるのである。

るのである。

今、あなた方は「戦争反対」を叫びながら、ベトナムやセルビアに爆弾の雨を降らし、アフガンやイラクやシリアやリビアを侵略し、何年もの間、人々を拘束して拷問を加え、勝手に他人の財産を差し押さえ、口頭の約束などは守る必要はないとそそぶ者たちと共に石を握っているが、あなた方は一体それを誰に向かつて投げようとしているのだろうか。

おそらく、あなた方は善意の人たちであるに違いない。だが、その善意は、あい対立する人々に対して公平であろうと心がけ、その主張のどちらが真実なのかを確認しようとする誠実さに裏打ちされていなければなるまい。

そして、自分が誠実であろうと努めたのかどうかという問いに対しては、昔の人の言葉にあるように、「それは、かの大きいなる日に至高の審判者に対し、自分自身がその良心において答えることができるだけ」なのである。その時、私たちの耳元で自分の良心が次のようにささやくことがなかつたとすれば、それは私たちにとって大いなる幸いである。「いや、あなたはそれを知っていた。」

## 【付記】

この間、次の一文の存在を知った。是非一読をお勧めしたい。伊丹万作「戦争責任者の問題」（一九四六年。全文をネット上で見ることができる。

へゆうき よういちろう・小樽商科大学名誉教授